

June / July
2023 No.23

A Newsletter from SCGO-JSOG Project
on Women's Health and Cervical Cancer

カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

プノンペン市内の小学校教員への健康教育を実施(2回目)

2023年6月6日および7日に、プノンペン州教育局の副局長・担当者の協力のもと、これまでに健康教育を実施していない小学校教員(約800名)に対して健康教育セッションを4回実施しました。女性教員544名(全対象の71%)および男性教員9名の参加がありました。1回目の健康教育(ニュースレターNo.21参照)で講師が参加者と十分に対話ができなかった教訓から、講義の後、少人数でのグループワークを行うのではなく、参加者全員で質疑応答を行う時間を増やしました。その結果、1回目の健康教育に比べて参加者と講師とのコミュニケーションが増え、活発なセッションとなりました。また、プノンペン州教育局の担当者が、既に何度も健康教育セッションを聴講していたことから子宮頸がんについて詳しくなり、ピアエデュケーターとなって検診の重要性をリマインドするなどポジティブな影響が見られました。

健康教育実施後、カンボジア産婦人科学会(SCGO)健康教育チームと、健康教育から検診、HPV検査陰性/陽性の説明方法の改善ポイントを整理しました。また、事業終了に向けた活動として、今後1年間の健康教育チームの活動を確認し、健康教育評価に関する論文作成を目指して定期的なオンライン会議を開催することになりました。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 神田未和)



健康教育参加者の受付風景



教育局担当者が検診の重要性をリマインド



健康教育風景

小学校教員への検診を実施(3回目)

上述の健康教育を行った小学校教員を対象に、検診機会も提供しました。前回の「検診登録の方法が分かりにくかった」という声を反映し、今回は健康教育セッションと同日に検診希望者が QR コードまたは電話で検診登録をできるようにしました。その結果、340 名の検診登録があり、そのうち 219 名が 6 月 12 日と 13 日の 2 日間で検診を受診しました。検診当日は、受付や検査ラベル発行を SCGO 事務局メンバーが担当し、2 つの婦人科診察室を使って SCGO 医師 2 人がそれぞれ検診を行っていました。検診終了時には、今後通知される健診結果の意味について改めて説明を受ける場も用意されており、健診の理解を促すのに大切な取り組みだと感じました。一つの病院で 1 日 100 人以上の検診受診者を受け入れるという体制でしたが、SCGO 事務局や病院のメンバーが円滑に検診会場を運営していることが印象的でした。

(国立国際医療研究センター 国際医療協力局 松下友美)



健康教育セッション終了後に QR コードから
検診登録を行う様子



婦人科診察室



検診後に回収された HPV 検査検体

第 22 回カンボジア産婦人科学会 女性の健康セミナー参加

2023 年 6 月 2 日、第 22 回女性の健康セミナーが開かれ、4 年振りに現地で参加しました。

日本からは、開会の挨拶で藤田則子医師(長崎大)がカンボジアにおける子宮頸がん対策の重要性と SCGO に期待するリーダーシップについて述べ、森繭代医師(東大)が「子宮頸がんの外科治療」の講演を行いました。また、SCGO の Sann Chan Soeung 理事が「世界およびカンボジアにおける HPV 型分布」に関するご発表、アジアオセアニア産婦人科連合の Pisake Lumbiganon 理事長がタイにおける子宮頸がん検診プログラムについて紹介するなど、これまでに増して子宮頸がんの内容が豊富なセミナーでした。

今回のセミナーには保健大臣(元産婦人科医)の出席があり、学会の様子は現地メディアにも取り上げられました

(<https://www.youtube.com/watch?v=OtZENsKWol8>)。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 春山 怜)



写真上: 会場の様子
写真下: 開会の挨拶を述べる藤田則子医師

国際連合人口基金 (UNFPA) カンボジア事務所を訪問

UNFPA は国連システムにおいて人口分野を担う機関であり、カンボジア事務所では主に家族計画、セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) に関する支援を行っています。今回、本事業活動について紹介し、これまでに作成した女性の健康や子宮頸がんに関する健康教育コンテンツを同事務所が開発したモバイルアプリ” [Youth Health](#) ” に活用してもらうなど連携可能かどうか協議しました。アプリへの導入はすぐには難しいけれども、紙媒体 (リーフレット) は、学校保健の場で活用したいと言っていました。このほか、カンボジアにおける子宮頸がん政策、検診プログラムについても有意義な意見交換ができました。本事業成果の展開のため、引き続き情報交換を継続していきたいと思えます。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 春山 怜)



アプリの一画面 (上記リンク先より引用)



UNFPA 担当官と



会議の様子